

■男だぜ、ラインメン—夏に鍛える⑥

「15年ぶり」を支える—東京農業大

オホーツク海を望む網走市八坂の高台に建つ東京農業大生物産業学部。日本で最北のアメリカンフットボール部は今秋の道学生選手権で、15年ぶりの1部リーグに挑む。今春はオープン戦2試合をこなし、北星学園大・札幌学院大合同チームとの対戦では、28-33と惜敗したもののランとパスでTDを奪い、手ごたえをつかんだ。走れるQBを生かして1部リーグに波乱を巻き起こせるか。鍵を握るのが6人のオフェンスラインメン(OL)たちだ。

主将でCの櫻井颯太(4年、新潟第一高)、Gが前島拓真(4年、茨城・水城高)と大和田和希(2年、福島・ふたば未来高)、Tが丹羽莞大(1年、神奈川・舞岡高)と二上紀生(1年、神奈川・湘南学園高)の5人と、3年ぶりに部に戻った5年生の島田伊織(東京・武蔵高)がバックアップを務める。6人の平均は身長が172.5センチ、体重は91.7キロ。決してサイズに恵まれているとはいえない。櫻井主将は「DLより早く踏み込んで当たる」、前嶋は「テクニックで勝負する」と決意を口にした。

オープン戦で1部のあたりを体感した6人は、夏場の練習で1対1の「ぶつかり稽古」を重ねた。「ブロックのフォームを固め、パスプロの時はQBを絶対守る動きも繰り返した」と前嶋。近づく本番を前に、気合も入ってきた。

昨年も3試合に先発した大和田は「去年は先輩に助けられたが、今年は後輩を助けるプレーをしたい。OLのおもしろさは頭を使って柔軟に対応するところ」と開幕を待ちわびる。1年生で先発に抜擢された丹羽と二上も気持ちを高ぶらせる。高校でもアメフト部だった丹羽は「オープン戦でもDLをしっかりブロックできた。パスプロが得意」という。二上は「夏の練習でとにかく体力を付けた。今は当たるのがおもしろい」と意欲十分だ。5年生の島田も「ラインのおもしろさは、力と力のぶつかり合いと駆け引き。ビッグプレーの礎になるのが楽しい」と余裕も見せる。

コロナ禍のため、2020年は大学の決定で道学生選手権2部を棄権に追い込まれ、昨季は変則日程の中で2部優勝と入れ替え戦勝利をつかんだ東京農業大。前嶋は「北大と北海学園大戦はプレッシャーも感じるが、6校総当たりのリーグ戦で試合をたくさん出来るのが楽しみ」と、過去2年のもやもやもぶつけるつもりだ。櫻井主将が「1部はあたりも強く早いけど、五分に渡り合うまともな試合をしたい。ラインの役割は重大」。6人の思いを力強く言い切った。(おわり)



1部の試合を心待ちする左から二上、大和田、櫻井、島田、丹羽の
東京農業大オフェンスライン。前嶋は所用でこの日は欠席